

◆久松久子 選 ～思ひ出の一句～

「怪我の名人はたまた登場」

さて、皆様、九十一歳の婆も足腰が弱くなりました。句会の会場に向かっていて、押し車を押しつつ大通りを横断しようとしてコンクリートの縁石に躓き大回転。オリンピックならメダルものだが、以前に右腕を骨折していて人工骨の腕がとっさに動かず、胸の骨四本を折り、肩も打ってしまった。

これは、昨年、七月七日のことである。この日は夫の命日だったが、転んだ瞬間に亡夫からの罰かなと思った。夫は給料をきちんと持って帰ってくれなかったのも、いつも悪口を言っていたからである。

見知らぬ人が救急車を呼んでくれ、けたたましいサイレンを鳴らしながら病院へと運ばれることに。付き添いで乗ったことはあるが、自分が運ばれるのは生まれて初めてである。怪我をしたにも関わらず、救急車の主人公になったのは満更でもない気分であった。

息子が小学四年生の時、廊下で遊んでいて窓ガラスに手をつき、ガラスが割れて手首から肘迄を切って、救急車を呼ぶ騒ぎになったことがあった。大怪我をしているのに、息子は救急車に乗れたのが嬉しくて、はしゃいでいた。まあ、親子とは斯くも似ているものよ。その息子に、今は世話になっている。

「痛い、痛いと言ったってしょうがないじゃないか」と叱られ乍らも、食事を準備してもらえるのは有難い。料理が得意で、いろいろなメニューを楽しむのは幸せである。

ふと仏壇に目をやると、夫の遺影が涼しい顔で見下ろしている。

遺影と観るオリンピックのテレビかな 久子

「デイサービス」

かれこれ十年ほど前になるだろうか。杖を頼りに近所の川縁を散歩していたら、後ろから来た男性に、「大分、足が弱っておられますね」と声をかけられた。

その方は高齢者の施設で仕事をしているとのこと、「私はデイサービスを担当しています。体操の指導やリハビリ、施術もあります。車での送迎もあるのですよ」と話された。調子に乗りやすい私はすぐに利用を申し込んだ。

しばらくして、いよいよデイサービスのデビューとなった。お迎えの車に乗って行ってみると、私の様に高齢の女性達が、十二、三人居られた。剪定の仕事をしてきた人、脳梗塞で半身不随になった方など、職歴、病歴も様々な人が参加しておられた。

体操は、まずマットの上で指導者に習ってひと通りやってみる。その他、ボールや紐を使った運動と動画を観ながらの独り体操をする。施術の先生は、一人ずつ診察してくださり、毎回、血圧、脈拍を測り、その結果を介護ノートに書いてくださる。これらの間に、好きな飲み物を二回飲むことができる。

見学をしてみた結果、良さそうだったので利用することにした。それ以来、怪我での入院以外は休まないで続いており、九十一歳の現在、元気に生きている。以前は学生時代の友人が多かったが、今はこれまで全く知らなかった様々な人達と出会って勉強になることが多い。すっかり皆さんと親しくなり、「口の達者な久松さん」で通っている。

送迎の車も楽しく、タクシーを利用していたら相当な運賃になっていただろう。心身ともに健康になれば、デイサービスは一石二鳥だと感謝している。

子どもの頃は、きょうだいの中で一番体が弱かった私なのに、姉も妹、弟もあちらの世に行ってしまい、いつの間にか私が一番の長生きとなった。

あの時、散歩の時にデイサービスを奨めてくださった方に心より言いたい。「本当にありがとう御座いました」。

送迎車はドライブ気分うらけし 久子

「孫たちの気遣い」

私には横浜に二人の孫がいる。先日、娘から電話があり、「夢洲の万博に行きたいというので一泊させてやってほしい」と言う。思いがけない再会が嬉し

くて、三十代の孫たちに「大きくなったねえ」と何度も言っしまい、二人から「おばあちゃん、当り前だよ」と言われてしまった。

どうやら娘から「おばあちゃんに負担をかけるな」と言われてきたらしく、パンやおにぎりをたくさん持参したり、外食先でも支払いをしてくれたりと、気を使ってくれた。

土産を持たせようとしても「いいよ、いいよ」と遠慮するものだから、ほんの少ししか渡せなかった。帰りは安いからと夜行バスに乗る二人をみて、無駄遣いをしない堅実な子に育っているのが分かった。今頃はバスの中で眠って居るだろう。

ひとときの孫との出会ひ麦の秋

久子